

生野銀山をどう未来につなぐか／市が引き継ぐ条例を賛成多数で可決

残す責任と将来負担 皆さんはどう考えますか？

6月定例会では、議案第46号「朝来市史跡生野銀山条例」が賛成多数で可決されました。この条例は、朝来市が生野銀山を「公の施設」として設置し、観光坑道や鉱山資料館などの保存・展示、情報発信、観光坑道の安全管理などを行うための基本的な枠組みを定めるものです。運営には指定管理者制度を活用し、令和9年4月からの事業開始が予定されています。



なぜ市が引き継ぐことになったのか

三菱マテリアルが観光事業からの撤退を決めた後、民間事業者への譲渡が検討されましたが、協議は成立しませんでした。新たな引受先が見つからなければ観光事業の継続が困難となることから、市は生野銀山を守る最後の受け皿として、施設・設備を譲り受け、観光事業を継承する方向を選択しました。

しかし、今回の判断には、将来にわたる市の責任と負担も伴います。市の資料では、譲り受ける建物を大規模改修した場合、約3億2,000万円が必要になると試算されています。さらに、観光坑道内の馬蹄や支保などの設備にも将来、修繕が必要となる可能性があります、その費用はまだ試算されていません。

議会で共有されていたこと

本会議では、2人が反対討論、5人が賛成討論を行いました。立場は分かれていましたが、討論に共通して

いたのは、生野銀山が単なる観光施設ではなく、朝来市の歴史、地域の記憶、日本の近代化を伝える、かけがえのない資産であるという認識です。

つまり、議論の中心は、生野銀山を残すか、残さないかではありませんでした。問われたのは、生野銀山を誰が、どのような責任と負担のもとで、持続可能な形で残していくのかという問題でした。

反対討論で示された考え

松井議員・森下議員の反対討論では、生野銀山の価値を認めたい一方で、現時点で市が引き継ぐことには、なお大きな不確実性があると指摘されました。主な理由は、老朽施設の改修・解体や設備更新に将来多額の費用が必要となる可能性、観光坑道を安全に運営するための人材・技術・管理体制、公共施設の総量を減らそうとする市の方針との整合性です。

また、市が引き継ぐ以外の選択肢を十分に検討したのか、議会や市民に判断材料が適切（裏面に続く）

朝来市創生の会

【私たちの理念】

会員議員は成長環境を保持し、議員としての当たり前の努力を惜まず、議会活動の充実を目指します。

【私たちのスローガン】

誠実に学び、正しく働き、信頼される議会へ。



森下 恒夫



藤原 正伸



松井 道信

な時期に示されたのかという、意思決定過程への疑問も示されました。「生野銀山の価値が高いからこそ、拙速に引き継ぐのではなく、何を残し、市がどこまで負担するのかを、市民や専門家を交えて議論すべきだ」という考えです。

さらには、進め方が拙速であり、将来の費用対効果や、市が日本遺産を担う覚悟、能力、財政力をさらに検討すべきだと訴えました。

賛成討論で示された考え

賛成討論では、民間による事業承継が成立しなかった以上、市が引き継がなければ、観光事業が途絶え、生野銀山が閉鎖される可能性があることが重視されました。一度閉鎖すれば、施設や人材、運営ノウハウを再び整え、観光事業を再開することは容易ではありません。地域の歴史を伝える拠点、郷土への誇りを育む場、観光振興の核を失うことを避けるため、まず公的承継の道を開くべきだとの判断です。

賛成討論の中でも、将来負担への懸念は否定されていません。既存建物をすべて同じ形で大規模改修するのではなく、使える施設は活用し、資料の展示場所や施設構成を将来見直すこと、国・県の支援を活用すること、専門性を持つ指定管理者を選定することなどが提案されました。

藤原議員は、条例はゴールではなく、指定管理者の選定、管理協定、修繕計画、財源措置を今後具体化し、議会がその都度審査・監視していくための第一歩だとの意見を示し、財政負担、安全管理、情報提供、市民理解などの課題が残ることを認めつつ、民間承継が不調となった後の最後の受け皿として公的に承継し、存続と活用の道を開くことには公益性と必要性があるとして賛成しました。

今、引き継ぐべき	一度立ち止まるべき
閉鎖すると再開が困難	将来負担の全体像が不明
民間承継が不調となった最後の受け皿	他の保存・運営方法の検討が不足
歴史文化資産の喪失を防ぐ	安全管理・専門人材の見通しが不足
詳細は可決後も議会が審査できる	引き継いだ後では撤退が難しい

生野銀山の価値については一致。

判断が分かれたのは、

不確定な課題が残る中でも今引き継ぐか、

将来像を固めるため一度立ち止まるかでした。

会派でも判断が分かれました

朝来市創生の会では、森下議員、松井議員が反対し、藤原議員が賛成しました。

3人とも、生野銀山の価値を守り、次世代へ継承する必要性については認識を共有しています。そのうえで、森下・松井両議員は、将来負担や管理体制、意思決定過程が不十分な段階で引き継ぐべきではないと判断しました。一方、藤原議員は、残された課題は可決後も厳しく検証すべきであるものの、事業の断絶を避けるため、現時点では公的承継の道を選ぶべきだと判断しました。

会派内で賛否が分かれたことは、重要な議案について異なる懸念や価値を比較し、それぞれが責任を持って判断した結果です。

皆さんはどう考えますか

生野銀山は、朝来市が将来に残すべき大切な歴史・文化資産です。一方、それを守るためには、安全管理、施設修繕、財源確保など、長期にわたる市の責任が生じます。

今回、市民の皆さんにも考えていただきたいのは、次のような点です。

- ・生野銀山の何を、どのような形で残すべきでしょうか。
- ・一時的な閉鎖のリスクと、将来の市民負担のどちらを重く考えるべきでしょうか。
- ・市はどこまで財政負担を引き受けるべきでしょうか。
- ・市民が判断するために、どのような情報が示されるべきでしょうか。
- ・観光、歴史文化、教育、地域経済をどのように結び付けていくべきでしょうか。

生野銀山を残す道は開かれた しかし、持続可能な運営への 課題はこれからである

条例は可決されました。しかし、これで生野銀山をめぐる議論が終わったわけではありません。今後、指定管理者の選定、管理運営方針、安全管理体制、中長期修繕計画、財源確保などが具体化されます。

私たち朝来市創生の会は、賛否それぞれの立場から示された課題を共有し、市民の皆さんの声を伺いながら、持続可能な運営となるよう引き続き検証していきます。

